

廃棄物学会関西支部 第3回廃棄物法制度に関するセミナー

開催報告

平成18年3月18日（土）京都大学において廃棄物・リサイクルに関する最近の動向および今後の行方をテーマとした「第3回廃棄物法制度に関するセミナー」を開催した。小雨舞う生憎の天気であったが、学生も含め103名の参加者が熱心に聴講した。

今回で3回目となる本セミナーでは、第1回、2回に引き続き由田秀人氏（環境省）にご講演をいただいた。講演は「廃棄物問題の歴史」、「廃棄物対策の改革」、「今後の展望」と時系列に沿った形で進められ、聴講者にとって整理し易い構成であった。

第1部の冒頭テーマ”廃棄物をめぐる15年間の変化”は、由田氏が環境省で廃棄物行政に携わってきた歴史そのものであった。東北地方や豊島での不法投棄問題の表面化に始まり、ダイオキシン関連法整備や廃棄物処理法の改正の意図などを自身の体験談も含め情熱的に説明いただいた。

第2部ではこれまで制定してきた各リサイクル法の内容やPCB、アスベスト対策について説明があった。また、パーゼル法についても言及されるなど多岐に渡った内容であった。

第3部ではG8の場で3Rイニシアティブについて日本がリーダーシップを発揮できる意義や東アジア地域での循環型社会の構築を一層推進していく取り組みについて説明があった。

講演は第1部で予定時間のほとんどを費やすことになったが、質疑の時間も十分に確保していただき準備していた質問を呼び水に会場から活発な質疑があった。参加者にとって非常に有意義で今後の活動に役立てることができるセミナーであったと確信する。

最後に、環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部長として非常にご多忙な職務の中、ご講演いただいた由田氏にこの場を借りて感謝申し上げます。



（関西支部 竹田航哉 記）